

論文審査の結果の要旨

氏名：土 方 みどり

専攻分野の名称：博士（医学）

論文題名：A prospective cohort study of newborns born to mothers with serum *Toxoplasma gondii* immunoglobulin M positivity during pregnancy

(トキソプラズマ IgM 陽性のハイリスク妊婦から出生した新生児を対象にした前向きコホート研究)

審査委員：(主 査) 教授 中 村 英 樹

(副 査) 教授 早 川 智 教授 山 上 聡

教授 越 永 從 道

本研究の背景として、本邦妊婦におけるトキソプラズマ (Tg) 抗体保有率が 2-10%と諸外国より低く Tg に対するハイリスク母体の存在が問題となっていることが挙げられ、Tg-IgM 抗体陽性妊婦から出生した児の先天性 Tg 感染症を前向き研究によって明らかとすることを目的とした。方法として 2013-2020 年に神戸大学と日本大学での Tg-IgM 陽性妊婦から出生した児を対象とし、臨床・頭部超音波等画像所見・ELISA 法での Tg-IgG/Tg-IgM 検出を行い、一か月検診以降は抗体検査も行った。2017 年出生児については Tg DNA semi-nested PCR を行った。先天性 Tg 感染の定義は、臨床症状を伴う Tg-IgG 陽性例または生後 12 か月まで持続する Tg-IgG 陽性例とした。結果、4385 例の妊婦スクリーニングのうち、Tg-IgM 陽性母体は 71 例でそのうち 66 人 (93%) が Tg-IgG 陽性であった。さらに、Tg 初感染の可能性の指標である低い Tg avidity index を示した症例が 41% (24/59 例) 存在した。また、52 名が先天性 Tg 感染症に対して予防効果のあるアセチルスピラマイシンまたはスピラマイシン治療を行った。出生児 73 名に Tg の臨床症状は認められなかったが、Tg-IgG および Tg-IgM 陽性が 1 名 (1%)、semi-nested PCR 陽性が 6% (2/32 例) であった。このように血清 IgG/IgM 値・semi-nested PCR では感染を疑われた例はあったが、先天性感染症の発症はなかったことを示した論文である。それとともに今後の早期診断のための新たな分子マーカー開発が求められることも課題として挙げられた。

以上より、この研究は新規性および独創性があるものと考えられる。

よって本論文は、博士（医学）の学位を授与されるに値するものと認める。

以 上

令和 5 年 2 月 22 日